

## 進捗状況の概要

### ■実施体制の構築

島根大学では 10 月に地域協創推進本部を立ち上げ、島根大学内のガバナンス体制を確立した上で本事業を開始した。また、事業全体を管理・運営・調整する地域未来戦略センターを設置した。加えて地域の人材確保事情や学生のキャリア教育、新しいビジネスモデルなどに精通した人材を COC+推進コーディネーター、島根県東部・西部地区のキャリアプランナーに任命した。これにより地域ニーズの一元的把握及び事業協働機関と連携したキャリア教育、ニーズと人材のマッチングなど地元就職へのきめ細かい支援が可能となり、当初計画の通り本事業実施体制を構築した。

### ■ひとつづくり

島根大学では、平成 29 年度の地域志向型キャリア教育特別プログラムの開設に向けて、プログラムのコア科目となる「地域未来論」を新たに開発した。これにより、地域での生活や仕事に対する価値の重要性について学生が学ぶことができるようになった。加えて、1 月より、学内のキャリアセンターと協働し、本教育プログラムの全体設計に関する協議を開始、学内状況の情報収集とプログラム案の作成を行い、学生に対して教育効果の高い教育プログラムの基盤を設計した。

1 月より、学内の教育開発センターと協働し、平成 30 年度の地域志向型初年次教育科目の全学必修化へ向けたステップとして、既存授業科目：スタートアップセミナーA・B（教養育成科目）の再開発を行い、当初計画を一年前倒して平成 28 年度にこれを試行することとし、全学必修化に向けて着実な実施体制を整えることができた。

島根県立大学・同短期大学部では、地元企業の就職ガイダンスを強化し、地域インターンシップ及び地域研究の実現のための基礎を構築するための準備をした。これにより、地域で働くことややりがいについての生の声を聞くことができ、学生の地域企業への興味関心を喚起することができた。

松江工業高等専門学校では、地域志向科目「地域産業とエンジニア」、「ふるさと教育」の開講に向け、後期授業科目「地域社会と産業」において講演を実施し、2 年生・3 年生のホームルームの時間には「ふるさと教育」に関する講演（2 月 15 日、17 日）を行い、学生の地域志向を高めることができた。また、各学科において、地域志向や地域課題解決能力を高めるために PBL 手法を用いた創造演習の授業を行ったことで、平成 28 年度の本格実施に向けた準備が整った。

以上、各校において人材育成のための教育カリキュラムを実施するための環境が整えられ、一部当初計画を上回る成果をあげることができた。

### ■しごとづくり

12 月に「しまね大交流会～未来を担う若人と地域の人・シーズ・ニーズが会う大交流会～」として異業種大交流会を実施し、地元企業 68、自治体 31、NPO その他団体 36、各大学・高専 96 の計 231 団体が 238 ブースを出展、1000 名以上が来場した。本事業に参加する 4 高等教育機関が中心となって、産業界のみならず行政、NPO、地域コミュニティ組織といった幅広いステークホルダーが互いのニーズ・シーズを交換、交流し、共同研究や雇用創出、学生のインターンシップ先の確保等につなげることができた。

### ■コミュニティづくり

本事業による地方創生を推進するオールしまねの協働体制の構築へ向け、2 月には協働教育パートナーシップ基本設計のためのワークショップを実施し、地元企業から 12 名と大学関係者 6 名が参加してインターンシップの教育的位置づけの重要性について共有した。また、しまねクリエイティブラボネットワークの試行として、3 月にセミナー「クリエイティブコミュニティをめざして」を開催した。WEB 上で地域に関する情報を集積する地域情報アーカイブ『Ago-Lab』は、仕様作成の上 10 月に発注し、3 月下旬にシステムが納品された。これにより、平成 28 年度での公開・運用開始が可能となった。

(COC+大学名：島根大学、事業名：地域未来創造人材の育成を加速するオールしまね協働事業)